



### 「自家焙煎珈琲 濱田屋」さん

大阪市本町はちょうど梅田と大阪の中間地点にある。この付近はむかしから船場といわれ、船着き場が点在し、人や物資の運搬拠点としてさまざまな問屋が軒を連ねていた。

下流にいけば道頓堀川となる東横堀川が、堺筋とさらに東の谷町筋の間を流れる。その川と本町通りが交差するところにカフェ「自家焙煎珈琲 濱田屋」さんがひっそりとあった。看板に、SINCE 1968とあるから、56、7年が経つ「老舗」だ。私は仕事からこの前をよく通っていたが、中に入

るのは今回が初めて。今日も仕事前に本町を訪れた、

ちょうどヴィンテージな大時計が奥行きのある心地いい音で、正午を告げた。

ナポリタン・スパゲッティは少し塩辛さが口の中に残ったが、程よい味付けのケチャップが口になじみ、大盛りにすればよかったと後悔するほどおいしかった。さらにシュークリームは、皮がクッキーのようにしっかりとした歯ごたえがある反面、中のクリームはとろとろで、これは売れるだろうなあと思った。パティシエが作るというから本格的スイーツを楽しめる。







## 古墳に突き刺さる民家へ

ほんの一月ほど前、友人と歩いたときに、この光景にちょっとした驚きがあった。民家が前方後円墳の頭、すなわち円墳部分に突き刺さっているではないか。

私はすぐに最近気に入っているカメラ、PowerShotV1を取り出し、シャッターを切った。しかし、ファインダーに映し出されたのは「SDカードが挿入されていません」という冷静かつ冷酷なエラーメッセージ…、またやってしまったか。

いつも外ブラするときにはずすことのできない大事なものにも関わらず、SDカードを入れ忘れることが多いのは自

分ながら驚愕する。ほぼ100%の確率で、きっと家のPCドライブに差し込んだままだ。そのリベンジと言っては何だが、目的地をここに絞って向かった。きっと猛暑になるだろうけれど…。

自宅からJR、および近鉄 桜井駅をぬけ、山の辺の道を特に意識せずに平等寺、大神神社を通過する。大神神社では拝殿前で人の列ができていてもものしなかったが、「夏の大祓い」で茅（ちがや）の輪をくぐろうとしている人の列だった。

大祓いは年に2回、6月と12月に行われる。半年の間の罪や穢れをお祓いする行事なのだという。大神神社だけで行

われている特別なものではなく全国的に行われているものだが、拝殿前に三ツ鳥居に似せた三輪の茅の輪が設けられるのはここだけだ。ひょっとして三輪の地名はここからきているのだろうか。

暑い夏の無病息災を祈願しようと参拝客の列がいまにもできそうなほどの多さで、守衛さんが交通整理をしていた。

大神神社の二の鳥居を出てすぐに右に折れて北に通じる道を歩くと突き当りに若宮社がある。大神神社の摂社だが、明治時代の神仏分離までは大御輪寺という御寺であった。どうりでお寺の建物に見える。

神仏習合は仏教の寛容で柔軟な教義と自然や祖先崇拝のそれとが溶け合い、認





め合いながら成り立った日本独特の宗教文化、というよりも精神文化だ。それをときの明治政府が分離するばかりか、寺や仏像を破壊した。タリバーンのような所業であるが、革命とはこういうものかもしれない。

若宮社を後にして、大神神社の二の鳥居まで戻らず、茅原の里に行くために路地というカテゴリーに入るか入らないかの細い道を思いつきで西に向かった。



の東の山裾を走るから、ここを通るハイカーが少ないことも手伝っている。そうはいってもやはり人の生活上の移動もあり、おおよそこの風景には似つかわしくないような3階建ての建て売りと思しき住宅の列がいきなり目に飛び込み、少し残念な気分になった。

その「いまどき」な建物を抜けると、今日の目的地、茅原大墓古墳が左手にある。後円部に対して前方部の規模が非常に小さい「帆立貝式古墳」。その特徴的な形から国の史跡に指定されている。

その国指定の史跡に右図の赤線で囲った部分の家屋が「突き刺さって」いる。奈良県の特に大和平野南部ではアルアル

奈良の道は脇道に入ると極端に細くなる。しかし昔ながらの佇まいがそこにはあって、太い道を避けより細い道を使うメリットは大きい。

「茅原」は「ちわら」と地元で呼ぶが、正確には「ちはら」と読むのかもしれない。ここで諸氏は先程の「茅の輪」を連想されたかもしれない。茅は野原や道端に映えるイネ科の植物で、いわゆるカヤやヨシ、

ススキなどを指す。下の写真は茅原から撮影したものだが、この写真からも茅が多く生えていたことは用意に想像できる。大神神社におさめていたのかどうかはわからないが、何らかの関係があったと考えてもおかしくはないだろう。

茅原からは大神神社の一の鳥居がよく見える。ここ一帯が原風景をкаろうじて保っているのに加えて、山辺の道はもうすこし向こう



さて、そろそろUターンしよう。しかしよく考えれば、ここから箸墓古墳（倭迹迹日百襲姫命の墓、一説には卑弥呼の墓とされる）は目と鼻の先だ。せっかくなので、箸墓を周回して帰ることにした。

…だんだん暑くなってきた。時刻にして10時をこえ、さらに気温がぐんぐ

存しながら、現代人のくらしとなり合わせにあることが奇跡であり、貴重

ん上昇中だ。

箸墓古墳もまた、人の生活と隣合わせにある。水壕の半分は道や家屋になっており、墓の西端は国道169号線が横切る。墓の全容を撮影しようと思えば、上空からでなければどんなアングルであれ人工物が邪魔をする。それでもなんとか撮影しようとする

なことだなと思った。

P1/1 茅原大墓古墳 2 平等寺 3 平等寺から大神神社までにあったカフェ 4 大神神社 夏の大祓い P2/ 5 若宮社 P3/ 6.7 茅原からの眺望 8 茅原大墓古墳 図 P4/ 9.10.11 箸墓古墳（倭迹迹日百襲姫命墓）



のは、やはり古代のロマンがそこかしこに漂っているからだろう。

この墓のどの場所に、誰が横たわるのか、どのような副葬品が眠るのだろうか。

その謎は私が生きている間には解けそうもない。しかし、それはそれで良いではないか。古代の遺産を大切に保



なのかもしれない。何せ桜井市内だけでも900基足らずの古墳が存在するのだから。

しかし、それを上回る数の古墳を有している市町村が奈良にはまだある。明日香を抱える高取町は700余基。その隣の御所市は実に1400基だ。人がペットと寄り添って生活するように、古代古墳とともに生活してきたのが奈良人なのである。

この古墳の向こう側には水壕が一部残っており、いまも水を湛えている。

## 謎の多い箸墓古墳

